

【質問件名】本市における無電柱化の推進について

【質問者】小金丸かずよし 議員（まるまる戸八会）

【作成課】都市整備局 道路維持課

■小金丸かずよし 議員

近年、全国各地で自然災害が激甚化・頻発化し、電柱倒壊による停電や通信障害などの被害が報告されています。また、都市景観の向上や安全な歩行空間の確保といった観点からも、無電柱化への期待は高まっております。

これまでには、都心・副都心地区などの拠点地区や、門司港レトロ地区などの都市景観重点整備地区を中心に実施されており、近年では、市街地の道路拡幅や学研都市などの面的な整備に合わせた実績が多いと認識しております。

私は、無電柱化事業は、災害の激甚化・頻発化、高齢者の増加等に加えまして、特に通学路における子どもたちの安全の確保の観点から進めていかなければならない重要事項だと考えております。電柱は、歩道の歩行スペースを狭めるだけではなく、自動車事故の原因である運転手の死角を生み出す要因にもなります。また、八幡東区や戸畠区の特徴でもあります、住宅が密集している地域などでは、災害により電柱が倒壊したり、停電や通信障害が長時間生じた場合、復旧に相当な時間を要することが懸念され、そこにお住いの方々は生活の不便さに加え、避難経路が塞がれることも想定されまして、最悪の場合、生死にかかわることにもつながりかねません。

市民が安心して暮らせるためにも、これから、住宅地を含む広域での無電柱化を進めいくべきだと考えます。

■武内和久 市長

無電柱化の推進について、無電柱化の取り組みの実績、それから、今後の計画などについてお尋ねございました。

「防災」観点の緊急輸送道路は、大規模災害時に、住民の避難やその救助活動、緊急物資の輸送、被災地の応急復旧などの経路として重要な役割を担うものであり、平成30年9月の台風21号において、電柱倒壊が原因で道路が閉塞する被害が発生したことをきっかけに、無電柱化推進の必要性が高まりました。

このため、北九州市では、令和4年度に「北九州市無電柱化推進計画」を策定いたしまして、緊急輸送道路を中心無電柱化を推進しております。他方、無電柱化の整備には、1kmあたり約5.3億円と多額の費用を要します。

このうち、電力会社等、電柱や電線の管理者にも、地上機器やケーブルの設置など、1kmあたり約1.8億円の負担が生じることから、管理者と合意に至った路線から整備を始めているところでございます。また、整備にあたりましては、費用面、施工面で有利な、区画整理などの面的な整備や、新設・拡幅事業に取り組んでいる道路を優先しております。これまで、八幡東区板櫃川沿いの大蔵到津線などで整備を行ってまいりました。その結果、令和6年度末の北九州市内の無電柱化の整備延長は、国の直轄区間を含め、約117kmとなっております。

現在、折尾総合整備地区の幹線道路や、小倉南区の恒見朽網線、小倉北区の城内木町1号線など、主に緊急輸送道路を対象に、延長約13.4kmで無電柱化を実施しております。今後は、今年6月に閣議決定されました「第1次国土強靭化実施中期計画」におきまして、「電柱倒壊リスクがある市街地等の緊急輸送道路の無電柱化対策の推進」が、施策の一つに位置付けられており、国が来年度策定予定の、次期無電柱化推進計画に反映されるものと考えております。

このため、北九州市といったしましては、国の次期無電柱化推進計画を受けまして、できるだけ速やかに、次期計画の策定に取り組み、引き続き、市街地等の緊急輸送道路の無電柱化など、安全・安心な街づくりを進めていきたいと考えております。

■小金丸かずよし 議員

市民生活にも直結してゐる問題だと私は思っております。特に、通勤と通学が重なっている時間帯ですね、7時から大体8時過ぎぐらいまで、細い歩道がですね、非常に多くて、そこに安全な整備がされてない道も市内には多々あります。それに加え、車道に対しても大きくなっている電柱というのがよく見かけることもありまして、電柱をよけようとして接触事故を起こし、自動車が少しよそ見をしたことで電柱に激突、衝突して、死亡事故も先月門司区でも発生しております。

その都度、対応いただいているということで、安全確保については、これからも講じていただきたいと思います。市長がおっしゃいましたように高額な費用がかかるということで、財源の確保についても、これから、しっかりと国と連携しながら計画を立てていただきたいと思います。